



（現代）魏志倭人伝

倭人は帯方郡の東南の大海の中より、山と島の国である。

昔は百列国は、漢の時代から朝見してくる者があったが、今は使節を送つてくるのは三十列国である。

都の洛陽から帯方郡を通過して倭国に至るには、帯方郡（現ソウル）

二重の先に魏に魏（高句麗）の沿岸を船で南の東に航

海して、倭国の北岸に当たる**狗狽狽**に到達する。概ね帯方郡から七千里である。

狗狽狽の港を出航するときから測り始めて、海一つを千里ほど

航海すると**対馬**（倭国）と同一と見られる。このころの

長官を単句（行処）と言ひ、副官を単奴母離（行守）と言ひ。絶島

であり、国土は、四方四百里程度と言へる。土地は山が険しく、深

林が多い。道路は獣道の様相である。千余戸が有つて、良田は

なく、海産物を食べて生活している。人々は船に乗つて交易してい

る。更に、海と云われている海は千里ほど南に航海すると**大國**（

岐国）に至る。ここで長官は単句（行処）と言ひ、副官を単奴母離

（行守）と言ふ。国土は、四方三百里程度と言へる。竹木が多く、

鬱蒼とした林となつてゐる。家屋は、三千戸は有ると認められる

が、田地は少なく、田畑を耕しても十分な食料には足りず、ここで

も交易によつて賄つてゐる。

更に、海一つ千里ほど航海すると**末盧**（倭国）に至る。四

千余戸が有つて、海沿いの山に居住している。草木が繁茂してい

て、道を行くにしても、前を歩く人が見えないほどである。好んで

魚や鯨を捕り、海の深さに関係なく、人々はここにでも潜つて

これらを取つてゐる。

上陸後、東南に陸路を五百里進ると**伊都**（倭国）に到く。

この長官は彌支と云ひ、副官は漢流（倭）と云ふ。家屋

は千余戸を有し、代々の王を立てているが、女王国統治下に

ある。これは魏の帯方郡の使節が往來して、常に駐留する所である。

伊都から東南に百里、陸路を進めば**奴**（倭国）に至る。

この長官は貳馬と云ひ、副官は單奴母離と云ふ。家屋は二万余

戸を有す。更に、海と云われている海は千里ほど南に航海すると

奴から更に百里、陸路を進めば**不彌**（倭国）に至る。

長官は彌支と云ひ、副官は單奴母離（行守）と云ふ。家屋は千余戸

が有る。

また、**不彌**の南の**奴**（倭国）に至るには、**帯方**

から船で二十日かかる。その長官は彌支と云ひ、副官は彌支利

と云ふ。家屋は五万余と云へる。

また、**奴**の南の**狗馬台**（山田田）という所が女王の都であり、

千余戸が有つて、陸行（陸路）と陸（海）と一月に至る。

この官位には序列があり、長官が伊都、次官が彌支、その

次が彌支、その次が奴と云ふ。家屋は七万余と云へる。

この地に對し（統治すること）られたとき、斷髪して体に龍の入れ墨

をして、水難や兵難の害を避けたと云ふ。

今まで巡り来たつた、女王国より北は、家屋の戸数や道程の概算は

出来るとしても、その他の周辺諸国は遠く離れているので詳しく

は分らない。分つてゐる国名は、

次の**斯馬**（倭国）が有り、

次の**斯馬**（倭国）が有り、

次の**文惟**（倭国）が有り、

次の**奴**（倭国）が有り、

これが大國である倭国女王の版図の境界である。

女王連合国の南に**狗**（倭国）が有り、男子を王としている。

この長官は**狗智**（倭国）という者がいるが、この国は

もは女王國には属していない。

また、**奴**の南の**狗智**（倭国）が有り、

次は**對**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

次は**奴**（倭国）が有り、

重くて紐で結束するだけで、殆ど縫うことをしない。婦人は曲げ

た髪を結んで頭を被つてゐる。衣服は單衣のように作つた布に、

中央に穴を開け、そこに頭を通して着てゐる。細い上質の麻布、緻密な

絹布、真綿を産出してゐる。

其の地には、牛、馬、鹿、豹、羊、カサギはいない。

兵士は刀、楯、木弓を用いて、木弓は短く長い。

竹の矢の鏃は、鉄あるいは骨である。

風土は、海南島の**儋那**、**朱崖**と同じである。倭の地は暖で

冬も夏も生野菜を食べており、皆、裸足である。

家屋には部屋があつて、父母兄弟は寝るころが異なつてゐる。

この入れ墨を施したのである。後には入れ墨は裝飾の爲になさ

れることになつたのである。諸国の入れ墨は、それぞれ異なり、

顔の左右、大小が違い、身分の尊卑で差がある。

この風俗は、倭に染らなことはなく、男子は髪をそのまま束ね、そ

の頭を木綿の布で結んでゐる。男子の衣服は左右の横幅を互いに

うのだが、先に占いの内容を告げるのである。その表現法は中国

の龜法に似ていて、大抵、飛い、髪の色を世に示して、未生も

うのである。

一同の集會で立ち座りの席順などは、父と子あるいは男女の区別

はない。人々の習性として、酒を嗜んでゐる。

兵士は刀、楯、木弓を用いて、木弓は短く長い。

竹の矢の鏃は、鉄あるいは骨である。

風土は、海南島の**儋那**、**朱崖**と同じである。倭の地は暖で

冬も夏も生野菜を食べており、皆、裸足である。

家屋には部屋があつて、父母兄弟は寝るころが異なつてゐる。

この入れ墨を施したのである。後には入れ墨は裝飾の爲になさ

れることになつたのである。諸国の入れ墨は、それぞれ異なり、

顔の左右、大小が違い、身分の尊卑で差がある。

この風俗は、倭に染らなことはなく、男子は髪をそのまま束ね、そ

の頭を木綿の布で結んでゐる。男子の衣服は左右の横幅を互いに

重くて紐で結束するだけで、殆ど縫うことをしない。婦人は曲げ

た髪を結んで頭を被つてゐる。衣服は單衣のように作つた布に、

中央に穴を開け、そこに頭を通して着てゐる。細い上質の麻布、緻密な

それは中国の**儋那**、**朱崖**と同じである。倭の地は暖で

冬も夏も生野菜を食べており、皆、裸足である。

家屋には部屋があつて、父母兄弟は寝るころが異なつてゐる。

この入れ墨を施したのである。後には入れ墨は裝飾の爲になさ

れることになつたのである。諸国の入れ墨は、それぞれ異なり、

顔の左右、大小が違い、身分の尊卑で差がある。

この風俗は、倭に染らなことはなく、男子は髪をそのまま束ね、そ

の頭を木綿の布で結んでゐる。男子の衣服は左右の横幅を互いに

重くて紐で結束するだけで、殆ど縫うことをしない。婦人は曲げ

た髪を結んで頭を被つてゐる。衣服は單衣のように作つた布に、

中央に穴を開け、そこに頭を通して着てゐる。細い上質の麻布、緻密な

絹布、真綿を産出してゐる。

其の地には、牛、馬、鹿、豹、羊、カサギはいない。

兵士は刀、楯、木弓を用いて、木弓は短く長い。

竹の矢の鏃は、鉄あるいは骨である。

風土は、海南島の**儋那**、**朱崖**と同じである。倭の地は暖で

冬も夏も生野菜を食べており、皆、裸足である。

家屋には部屋があつて、父母兄弟は寝るころが異なつてゐる。

ただ一人の男子が飲食の給仕をし、女王の言葉や伝へる爲に居処

に出入りしてゐる。宮殿がある処は樓閣（高層）で、城壁を厳重に

設けてあり、常に兵器を持つて守衛する人がいる。

伊都國にては一大率が常駐して監視に当たつており、魏の刺史

は、**奴**の領主である。

女王國の東にある海は、そのまま千里ほど渡ると、また國が有

つて皆、倭人種である。また、**倭**（倭国）種も、この國が有つて

住人の身長は三、四尺（工程）である。女國を離れて、四千

里の所である。また、**倭**（倭国）種も、この國が有つて

住人の身長は三、四尺（工程）である。女國を離れて、四千

里の所である。また、**倭**（倭国）種も、この國が有つて

住人の身長は三、四尺（工程）である。女國を離れて、四千

里の所である。また、**倭**（倭国）種も、この國が有つて

住人の身長は三、四尺（工程）である。女國を離れて、四千

里の所である。また、**倭**（倭国）種も、この國が有つて

住人の身長は三、四尺（工程）である。女國を離れて、四千

里の所である。また、**倭**（倭国）種も、この國が有つて

住人の身長は三、四尺（工程）である。女國を離れて、四千

えん。倭王は使者を通して、魏の使節に上表文を託して詔と

思ふ。魏に感謝の意を表した。

どうしが互いに罪を責め合つて、当時千人を殺した。

再び**狗馬台**の**卑弥呼**の宗族の女性で、十三歳になる**壹與**を王に

立てて、國中がやつと収まつた。

張等は先の魏を以て**壹與**に**狗馬台**との和議を告諭した。

壹與は、大使として率善中郎將等二十八人を帯方郡に遣

し、**張**等の帰途を送つてきた。こうして**倭**の使節は皇帝の都

（洛陽）を詣り、男女の生口三十人を献上し、白珠（白い貝殻）を工し

た志を五千孔、翡翠の勾玉、青い琥珀二枚、様々な模様様の錦二

十匹を貢いだ。

帯方郡の長官に任じた。倭の女王である**卑弥呼**は**狗馬台**（倭）

正始八年（247）年、帯方郡の長官の**弓連**が戦死したので**王**（倭）

が、**倭**の長官に任じた。倭の女王である**卑弥呼**は**狗馬台**（倭）

正始八年（247）年、帯方郡の長官の**弓連**が戦死したので**王**（倭）

が、**倭**の長官に任じた。倭の女王である**卑弥呼**は**狗馬台**（倭）

正始八年（247）年、帯方郡の長官の**弓連**が戦死したので**王**（倭）

が、**倭**の長官に任じた。倭の女王である**卑弥呼**は**狗馬台**（倭）

更に倭國では、男王を立てたが連合國中がこれに従はず、更に國

どうしが互いに罪を責め合つて、当時千人を殺した。

再び**狗馬台**の**卑弥呼**の宗族の女性で、十三歳になる**壹與**を王に

立てて、國中がやつと収まつた。

張等は先の魏を以て**壹與**に**狗馬台**との和議を告諭した。

壹與は、大使として率善中郎將等二十八人を帯方郡に遣

し、**張**等の帰途を送つてきた。こうして**倭**の使節は皇帝の都

（洛陽）を詣り、男女の生口三十人を献上し、白珠（白い貝殻）を工し

た志を五千孔、翡翠の勾玉、青い琥珀二枚、様々な模様様の錦二

十匹を貢いだ。

帯方郡の長官に任じた。倭の女王である**卑弥呼**は**狗馬台**（倭）

正始八年（247）年、帯方郡の長官の**弓連**が戦死したので**王**（倭）

が、**倭**の長官に任じた。倭の女王である**卑弥呼**は**狗馬台**（倭）

正始八年（247）年、帯方郡の長官の**弓連**が戦死したので**王**（倭）

が、**倭**の長官に任じた。倭の女王である**卑弥呼**は**狗馬台**（倭）

正始八年（247）年、帯方郡の長官の**弓連**が戦死したので**王**（倭）

が、**倭**の長官に任じた。倭の女王である**卑弥呼**は**狗馬台**（倭）

正始八年（247）年、帯方郡の長官の**弓連**が戦死したので**王**（倭）

